

善光寺平南部の条里遺構

Jori Sites in the Southern Zenkoji Plain

市川隆之

- ①善光寺平の条里遺構の分布
- ②条里型水田の様相
- ③条里施工時期とそれ以前の水田、非条里型水田について
- ④条里型水田の特長と施工主体
- ⑤条里型水田のその後

【論文要旨】

長野県北部にある善光寺平には条里型地割が認められる地点がいくつかある。そのひとつ更埴条里遺跡において初めて埋没条里型水田が確認されたが、その後、石川条里遺跡や川田条里遺跡でも同時期の埋没条里型水田跡や古代の水田跡の存在が明らかにされた。何れも千曲川沿岸の後背低地に立地する遺跡であるが、近年、これらの遺跡が高速道路・新幹線建設に伴って大規模に発掘調査されたことから新たな知見がもたらされた。本稿ではこれらの発掘調査成果を中心に善光寺平南部の古代水田の様相を紹介するものである。

近年の調査成果で注目される点は、9世紀末の洪水砂で埋没した条里型水田跡が広範囲で調査されたこと、広域での半折区画の採用が知られたこと、さらに先行する古代水田跡が一部で確認されたことがある。また、9世紀末の埋没条里型水田が(8世紀末前後から)9世紀前半ころに成立したと推測されるものの、異区画水田が微妙な時期に存在した可能性が知られるようになり、条里型水田の出現が単一か、段階的なものか微妙な問題を生じている。この問題は所見に不確定なところがあって明確な問題として提起しにくいところもあるが、併せて触れる。